



改修された住民委員会ビル



若者のイニシアティブによるキャンプ内の清掃作業

April 2018

アクバットジャバルキャンプでのパイロット事業が完了

PALCIP(難民キャンプ改善プロジェクト)では、最初のパイロット事業実施キャンプとして選定されたアクバットジャバルキャンプにて、2017年3月より、キャンプ改善のための住民参加型計画策定を行ってきました。

2017年7月に完成したキャンプ改善計画(CIP)の中から、JICA専門家チーム、パレスチナ解放機構(PLO)難民局(DoRA)、キャンプ改善フォーラム(CIF)メンバーで協議を行い、優先順位が高く、かつ実施可能な活動を、インフラ事業・ノンインフラ事業からそれぞれパイロット事業として選定・実施してきました。そして2018年3月、ついにパイロット事業が完了しました。

誰もが使いやすい公共施設に(インフラ事業)

インフラパイロット事業では、「公共施設への障害者等のアクセシビリティ向上」を目的として、住民委員会(PC)ビルディングの改修、モスク3か所および女性センターのアクセス改善のための工事が実施されました。

ユニバーサルデザインを考慮した改修を計画した結果、PCビルディングでは、玄関前のスロープの設置、トイレ・電灯・ホールのメンテナンス、非常階段設置が、3か所のモスクでは入り口におけるスロープ・手すりの設置が、女性センターでは入り口のスロープの設置が行われました。また、改修工事に際しては、安全意識に欠ける傾向にある現地工事業者に対して、工事中の安全対策に関わる指導も継続的に行いました。

若者のリーダーシップを育成(ノンインフラ事業)

ノンインフラパイロット事業では、「青年のライフスキル向上」を目的とした活動を行いました。青年たちはコミュニケーション、チームワーク、リーダーシップに関する研修を受講した後に、3グループに分かれ、彼ら自身でグループ活動を計画・実施しました。具体的なグループ活動としては、①キャンプでの生活の様子を撮影・編集してYouTubeに投稿する活動、②キャンプの清掃・美化活動、③障害のある子供との交流会です。グループ活動中には、青年たちは様々な課題に直面しました。たとえば、それぞれの活動目的を達成するためのアクティビティ案はあるものの、具体的な活動に落とし込めない、そのための段取りができない、活動に参加するメンバーが回を重ねるごとに減っていく...などです。しかし、キャンプのファシリテーターやDoRA職員によるフォローアップの甲斐もあり、青年たちは活動をやり遂げることができました。

3月末に実施した最終報告会では、参加した青年たちだけでなく、その家族からも、学校が終わった後の時間を、有意義に過ごす場ができて良かったという声もありました。

一連のアクバットジャバルキャンプでの活動を通して、住民委員会(PC)および、DoRAは住民参加によるキャンプ改善の重要性について理解が深まったと感じています。これらの経験をもとに、DoRAは新たに二つの難民キャンプで同様の活動を展開していきます。